出　田　遺　跡

――県営ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書――

1995

石川県立埋蔵文化財センター

出　田　遺　跡

――県営ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書――

石川県立埋蔵文化財センター

例　言

1．本書は、石川県珠洲市若山町出田地内に所在する出田遺跡発掘調査の報告書である。

2．本調査は県営ほ場整備事業若山地区出田工区の施工に係る発掘調査であり、石川県農林水産部耕地整備課、及び珠洲土地改良事務所の依頼により、石川県立埋蔵文化財センターが実施した。

3．現地調査は平成4年5月18日～同年5月29日にかけて実施した。

4．発掘調査は中島俊一（平成4年当時当センター調査専門員）、川畑　誠（平成4年当時当センター主事）が担当した。

5．発掘調査にあたっては下記の珠洲市若山町出田地区有志の協力を得た。深く感謝したい。
　池辺庄太郎、岩木栄光、垣地たけ子、岸田けし、木本宋作、坂常清、薩摩みね子、
　田端昇作、坪根ツヨ、道下よきゑ

6．出土遺物整理作業は、平成6年度に㈳石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。

7．本書は中島との打ち合せのもと松山温代（当センター主事）が執筆、編集した。

8．本書における挿図等の扱いは以下のとおりである。
　(1)挿図中に用いた方位はすべて座標北、また水平基準は海抜高（m）である。
　(2)挿図の縮尺は図中に明記した。
　(3)写真図版の出土遺物の縮尺は不定であり、付した番号は挿図遺物番号に一致する。

9．本調査の出土遺物、記録資料等は当センターが一括して保管している。

目　次

頁

第１章　位置と環境……1
第２章　調査に至る経緯と経過……5
第３章　調査の結果……6
第１節　調査区
第２節　遺構と遺物
第４章　おわりに……13

図版目次

図版第一　遺　跡　(1)遺跡遠景（西から）　(2)１～３区完掘状況（北西から）
図版第二　遺　跡　(1)１区１号溝木製品出土状況（北東から）
(2)１区１号溝付近完掘状況（南東から）
図版第三　遺　跡　(1)４～８区完掘状況（北西から）
(2)５区近現代溝付近完掘状況（北から）
図版第四　遺　物

挿図目次

頁

第１図　珠洲市の位置……1
第２図　出田遺跡と周辺の遺跡分布図（縮尺 25,000分の１）……2
第３図　調査区の位置図（縮尺 3,000分の１）……5
第４図　調査区平面図（縮尺 100分の１）……7
第５図　調査区南壁土層断面図（縮尺 150分の１）……8
第６図　１号溝土層断面図・平面図（縮尺 60分の１）……9
第７図　出土遺物実測図１（縮尺３分の１）……10
第８図　出土遺物実測図２（縮尺８分の１）……11
第９図　出土遺物実測図３（縮尺８分の１）……12

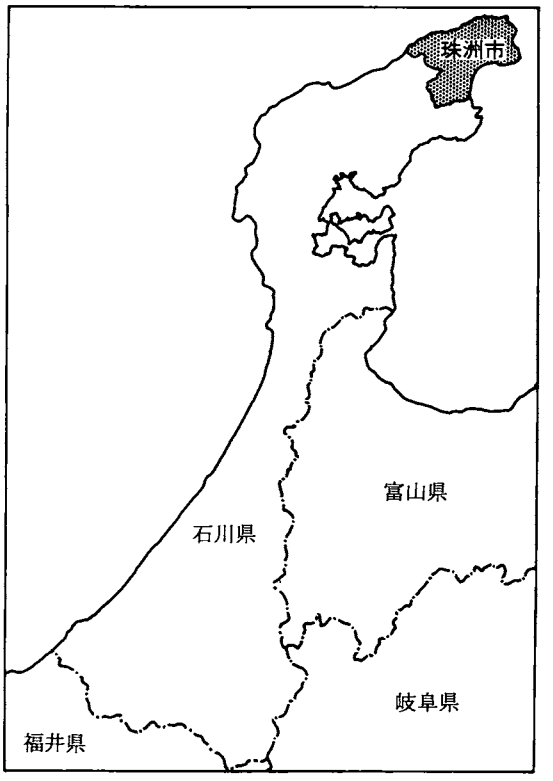
表 目 次

頁

第１表　周辺遺跡地名表……3

第１章　位置と環境

出田遺跡は、石川県珠洲市若山町出田地内に所在する（第１・２図）。珠洲市は能登半島の先端に位置し、北・東・南の三方を海に囲まれ、西に輪島市・柳田村・内浦町と接する。面積は約247㎢、人口は約２万３千人を数える。地形的に概観すると、北西部を占める宝立山（標高468m）を最高峰とする宝立山地、その東南側に連なる丘陵地、海岸段丘群、沖積平野とに分けられる。奥能登は低い山地で占められ、一般的に山地が海岸線にまで迫り平野に恵まれないが、珠洲市は内浦海岸側の金川、若山川、鵜飼川下流域でやや広く平野が発達している。



第１図　珠洲市の位置

出田遺跡は、若山川下流域の右岸河岸段丘上に位置する。若山川は珠洲市で最も長大な河川で、市のほぼ中央を西から東へ流れ、中流域の若山町鈴内で南へと流れを変え富山湾（飯田湾）に注ぎ込む。この若山川および金川流域では横穴群をはじめとする多くの遺跡が分布している。

次に本遺跡周辺の歴史的環境（第２図、第１表）を概観すると、まず、晩期旧石器時代もしくは縄文時代草創期のものとして若山町井林（23）の尖頭器１点があげられる。珠洲市ではほかに三崎町雲津でも同じような尖頭器が１点出土している。縄文時代の遺跡は、現在市域で50近く確認されており、前期から晩期のものまでみられる。その遺跡の多くは台地上や丘陵上に立地しているが、縄文海進が終わった後・晩期には平地となった沖積平野部にも確認されている。市指定史跡の三崎町高波ふるや遺跡は、縄文前期末～後期中葉までの土器・石器ともに鹹水性の貝殻を出土し、さらには弥生中期～古墳前期、中世の遺物も出土した長期間存続した遺跡である。若山川流域の縄文時代の遺跡は若山町の成徳中成徳遺跡、大坊だいじょう寺畑遺跡、経念古麻志比古神社遺跡（24）、広栗向山遺跡（21）、野々江町野々江恒方屋敷遺跡（20）があり、上・中流域に多くみられる。

弥生時代の遺跡は市域で数ケ所しか確認されておらず、先の縄文時代、後の古墳時代に比べ弥生の遺跡数は格段に少なく、状況は不明である。前述の高波ふるや遺跡では弥生中期の櫛描文土器が出土している。若山川流域では本遺跡、経念遺跡（25）、飯田町遺跡（16）、古麻志比古神社遺跡があげられる。また、市史編纂の折に行われた三崎町粟津カンジャバタケ遺跡の調査で弥生後期末の土器が確認された。

古墳時代には若山町鈴内地区、経念地区など若山川左岸の丘陵部を中心に22支群・総数150基に達する古墳群が形成される。上戸町寺社の上戸大池古墳群（９）、経念古墳群（28）、鈴内山岸古墳群（32）、岩坂町岩坂古墳群（38）、野々江町野々江ミョウケン山古墳群（44）などであり、珠洲で古墳が造られはじめたのは４世紀中頃の鈴内地区においてであると言われている。その後、５世紀後半頃から上戸町寺社に永禅寺古墳群が築かれる。１・２号墳は発掘調査され、どちらからも組合式箱形石棺が発見された。石棺からは刀剣類を検出し、特に１号墳の石棺から出土した胡ろくは県内初のものであり、また全国的

第２図　出田遺跡と周辺の遺跡分布図　　1/25,000

No.	県遺跡No.	名称	所在地	種別	現状	時代	備考
1	05085	寺社今社遺跡	珠洲市上戸町寺社	散布地	畑	中世	
2	05090	北方山岸B遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	田	奈良～平安	
3	05089	大定院遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	田	不詳	
4	05088	永福寺遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	山林	古墳	
5	05091	北方光貞遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	畑	縄文	
5	05092	北方光貞B遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	畑	古墳	
6	05086	寺社鳥居浜遺跡	珠洲市上戸町寺社	散布地	畑	縄文	
6	05087	寺社鳥居浜B遺跡	珠洲市上戸町寺社	散布地	畑	古墳	
7	05093	北方池の下遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	田	縄文	
8	05094	あまきび焼窯跡	珠洲市上戸町寺社	窯跡	林	江戸	
9	05095	上戸大池古墳群	珠洲市上戸町寺社	古墳	山林	古墳	
10	05060	北方うれの遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	畑	縄文	
11	05098	北方池の下B遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	田・畑	古墳	
12	05097	上戸陣ケ平古墳群	珠洲市上戸町	古墳	山林	古墳	円墳5基
13	05099	日光社遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	畑	古墳	
14	05100	北方遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	宅地	古代	
15	05101	北方大門口遺跡	珠洲市上戸町北方	散布地	田	縄文	
16	05102	飯田町遺跡	珠洲市飯田	散布地	宅地・道路	平安・中世	
17	05103	飯田城山遺跡	珠洲市飯田山	城跡	山林	室町末期	
18	05104	飯田1・2号横穴	珠洲市若山町出田	横穴墓	山林	古墳	崩壊
19	05106	出田有政遺跡	珠洲市若山町出田	散布地	田	古墳	
20	05107	野々江恒方屋敷遺跡	珠洲市野々江町	散布地	荒地	縄文・中世	
21	05108	広栗向山遺跡	珠洲市若山町広栗	散布地	山林	縄文・古墳	
22	05112	落合御坊跡	珠洲市若山町経念	寺院跡	田・宅地	南北朝～室町	
23	05109	井林遺跡	珠洲市若山町中田井林	散布地	田	縄文	
24	05110	古麻志比古神社遺跡	珠洲市若山町経念森辺	散布地	社地	縄文・弥生・平安・中世	
25	05113	経念遺跡	珠洲市若山町経念	散布地	田	弥生	
26	05114	経念B遺跡	珠洲市若山町経念	散布地	田	中世	
27	05115	経念横穴群	珠洲市若山町経念	横穴墓	山林	古墳	2基以上
28	05066	経念古墳群	珠洲市若山町経念	古墳	山林	古墳	円墳10基以上
29	05119	鈴内山岸為重横穴群	珠洲市若山町鈴内	横穴墓	山林	古墳	44基以上（開口26）
30	05118	鈴内山岸宮の高横穴群	珠洲市若山町鈴内	横穴墓	山林	古墳	12基以上
31	05117	鈴内山岸則友横穴群	珠洲市若山町鈴内	横穴墓	山林	古墳	5基以上（開口4）
32	05116	鈴内山岸古墳群	珠洲市若山町鈴内	古墳	山林	古墳	
33	05120	鈴内二の谷横穴群	珠洲市若山町鈴内	横穴墓	山林	古墳	34基以上（開口26）
34	05121	岩坂藤瀬山横穴群	珠洲市岩坂町	横穴墓	山林	古墳	2基以上
35	05123	岡田横穴群	珠洲市正院町岡田	横穴墓	山林	古墳	8基確認
36	05125	岩坂塚亀古墳群	珠洲市岩坂	古墳	山林	古墳	
37	05126	岩坂塚亀横穴群	珠洲市岩坂町塚亀	横穴墓	山林・墓地	古墳	10基以上
38	05124	岩坂古墳群	珠洲市岩坂	古墳	山林	古墳	
39	05149	飯塚1号横穴	珠洲市正院町飯塚	横穴墓	山林	古墳	埋没
40	05127	岩坂三百刈遺跡	珠洲市岩坂町	散布地	宅地	古墳	
41	05128	岩坂向林横穴群	珠洲市岩坂町向林	横穴墓	山林	古墳	7基以上
42	05136	熊谷羽黒山横穴群	珠洲市熊谷町	横穴墓	山林	古墳	2基以上（開口1）
43	05129	野々江ハゲノマエ横穴群	珠洲市野々江町杉の木	横穴墓	山林	古墳	25基以上（開口12）
44	05130	野々江ミョウケン山古墳群	珠洲市野々江町	古墳	山林	古墳	円墳5基以上
45	05131	野々江島田遺跡	珠洲市野々江町	散布地	畑	古墳	
46	05132	野々江妙珠寺遺跡	珠洲市野々江町	散布地	社地	古墳	
47	05133	野々江杉の木遺跡	珠洲市野々江町	散布地	畑	古墳	
48	05134	熊谷神社遺跡	珠洲市熊谷町	散布地	田	古墳	
49	05135	本江寺遺跡	珠洲市熊谷町	寺院跡	田	室町	
50	05140	正院小路遺跡	珠洲市正院町小路	散布地	田・宅地・畑	平安～中世	
51	05138	正院興福寺裏畑遺跡	珠洲市正院町小路	散布地	社地	古墳	
52	05139	正院館薬師遺跡	珠洲市正院町小路	墳墓	畑	中世	珠洲焼、板碑、五輪塔

第１表　周辺遺跡地名表

にも珍しいものである。後期、７世紀以降になると宝立町春日野に大畠古墳群、大畠南古墳群が形成される。大畠古墳群の１号墳は横穴式石室を有し、４号墳からは金銅装双竜式環頭大刀柄頭が出土している。大畠南古墳群１・２号墳からは退化したタイプの横穴式石室が検出され、１号墳からは約30点の須恵器、土師器が出土している。また６世紀後半から総数約200基に及ぶ横穴墓群が、般若川、若山川、金

川等の中小河川によって形成された谷平野ごとに数群ずつまとまって盛んに造られるようになる。若山川、金川中流域では若山町の鈴内山岸為重横穴群（29)、鈴内二の谷横穴群（33)、正院町岡田横穴群（35)、岩坂町岩坂塚亀横穴群（37)、野々江町杉の木の野々江ハゲノマエ横穴群（43）等の横穴群が存在し、市域の半数以上の横穴墓がこの地域に集中している。

古代において珠洲市域は、養老二年（718年）５月に律令制のもと越前国の一郡であったのが、羽咋・能登・鳳至・珠洲の４郡を以て能登国とされ、能登国珠洲郡となった。現正院地域は、その地名や方格地割の残存から珠洲郡の郡衙と推定されている。珠洲郡には、日置・草見・若倭・大豆の４郷と余戸がおかれた。このうち現地域への比定がほぼ確実視されているのは若倭郷だけであり、それは若山川下流域と比定される。また若山川下流域の古代の遺跡として、上戸町北方の北方山岸Ｂ遺跡（２)、北方遺跡（14)、飯田町遺跡（16）が確認されている。11世紀末、能登国司に着任した源俊兼は在任中、珠洲郡東部のほとんどを私領とし、これを子の季兼に伝領させた。やがて季兼は豊後国司となり、珠洲郡東部の所領を康治２年（1143年)、崇徳上皇の后藤原聖子に寄進し、若山庄が成立した。

なお、古墳時代から古代にかけて富山湾に面する高波・伏見・粟津などで土器製塩が盛んにおこなわれ、現在市域では三崎町森腰浜遺跡をはじめ30以上の製塩遺跡が確認されている。

中世の珠洲郡の庄園・公領は、承久３年（1221年）の「能登国大田文」によって当時の概略が知ることができる。これによれば、中世前期の珠洲郡の範囲は今日の鳳至郡の一部をも含み、郡内の若山庄・珠々正院・蔵見村・高屋浦・方上保の５つの庄園・公領は現市域に比定される。また、能登国最大の面積規模の庄園であった若山庄は、中世後期には木朗郷、直郷、飯田郷、若山郷、西海浦の４郷１浦から構成される。この若山庄と深く関係するのが中世陶器である珠洲焼の生産である。珠洲焼は、古代の須恵器生産の技術を継承して焼かれた須恵器系陶器で、生活必需品である甕・壺・擂鉢の基本三種と各種の宗教器が生産された。珠洲地域で珠洲焼の生産が始ったのは12世紀後半のことで、以後16世紀前半頃まで生産される。現在知られている４支群20基の窯の分布が郷に分散しながら若山庄域におさまることと、庄園領主日野家の祈禱所の法住寺があり、庄政所がおかれたと推定される若山郷に隣接する直郷だけが、数群の操業単位を構成し中世を通じて継続的に稼働したことから、珠洲窯が若山立庄とかかわって開窯したと考えられている。

珠洲焼の編年は３段階７期に区分でき、第１段階（第Ⅰ～Ⅱ期）は珠洲窯の創業期、第２段階（第Ⅲ～Ⅳ期）は珠洲窯の発展期、第３段階（第Ⅴ～Ⅶ期）は珠洲窯の変容・衰退期である。窯跡としては上戸寺社カメワリ坂窯第１号窯（第Ⅰ期)、宝立町春日野法住寺第２号窯（第Ⅱ期)、馬緤町馬緤窯（第Ⅲ期)、法住寺第３号窯（第Ⅳ期)、宝立町相原西方寺第２号窯（第Ⅴ・Ⅵ期)、西方寺第１号窯（第Ⅶ期）等があげられる。珠洲焼は13～14世紀にかけて海運を利用して、加賀から北海道南部までの日本海側に広く流通し商圏を得て生産を拡大させたが、15世紀後半には急速に衰退し、その支配してきた商圏を越前焼に取って代られた。珠洲焼の経営主としては「郷」を生産基盤とする土豪的有力名主層とし、工人は国衙直属の専業的な焼物師ではなく、農閑副業として焼物づくりをし村落生活を営む「百姓」であったと考えられている。

ほかに中世の遺跡として、飯田町遺跡、飯田城山遺跡（17)、正院小路遺跡（50)、正院館薬師遺跡（52)、正院川尻城跡がある。飯田城山遺跡と正院川尻城跡は中世城郭跡であり、前者は分布調査により２つの郭をはじめとして堀や堀切り、井戸跡と考えられるものが確認され、後者では３度にわたる詳細な分布・試掘調査により５つの郭や城内の主要な郭を区画する空堀など城の縄張りや範囲が確認された。

近世では上戸町寺社のあまびき焼窯跡（８)、宝立町春日野の三杯焼窯跡、正院町カンド山武家屋敷跡、正院町川尻御山武家屋敷跡などが知られているだけである。

第２章　調査に至る経緯と経過

本調査は県農林水産部耕地整備課による県営ほ場整備事業若山地区出田工区に係わるもので、珠洲土地改良事務所の依頼により石川県立埋蔵文化財センターが実施した。平成３年12月４、５日、同月19、20日に行われた分布調査により、出田地内水田の地表面から25～140㎝下に遺物包含層が東西100ｍ、南北140ｍの範囲で確認された（第３図）。当センターと関係機関との協議の結果、埋蔵文化財に影響を及ぼす排水路埋設工事部分を発掘調査として対応することとなり、平成４年５月18日～29日にかけて現地調査を行った。

現地調査は調査第一課調査専門員中島俊一（現、同課課長）、同主事川畑　誠（現、㈳石川県埋蔵文化財保存協会主事）が担当して実施した。

出土品等整理作業は、平成６年度に㈳石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した。

第３図　調査区の位置図　　1/3000

以下に、調査日誌抄を記す。

調査日誌（抄）

5月18日(月)	晴	珠洲土地改良事務所担当者と現地協議。発掘機材・機械搬入。重機による表土掘削。
5月19日(火)	晴	1～3区、4～8区壁面清掃作業及び遺構検出作業。
5月20日(水)	曇	1～3区遺構掘り下げ作業。4～8区遺構検出・掘り下げ作業。杭打ち作業。
5月21日(木)	晴	4～8区図面作成作業。1区遺構掘り下げ作業。9～12区遺構検出作業。
5月22日(金)	曇のち晴	排水作業。4～8区完掘状況等写真撮影作業。
5月25日(月)	晴	排水作業。1～3区、10～12区図面作成作業。4～9区部分的に試掘を行う。
5月26日(火)	晴	1～3区図面作成作業。4～9区部分的に試掘を行う。完掘状況等写真撮影作業。機材整理作業。
5月27日(水)	曇時々雨	機材整理作業。1区1号溝遺物等取り上げ作業。
5月28日(木)	晴	図面作成作業。
5月29日(金)	晴	機材撤収作業。調査終了。

第3章　調査の結果

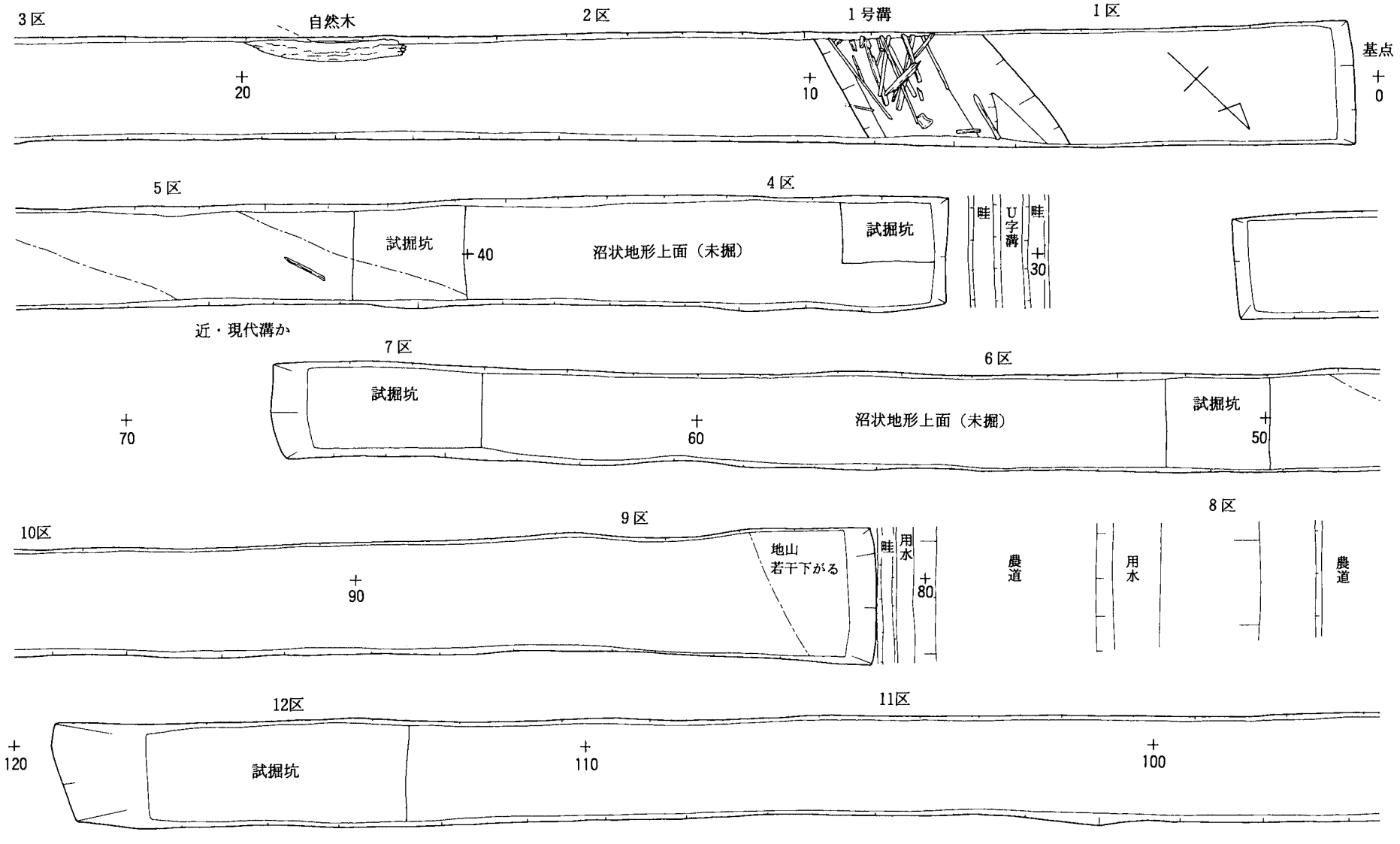
第1節　調査区（第3・5図）

調査区（第3図）は出田地内の水田の中央部からやや西の丘陵よりに、北西から南東に直線に延びる排水路埋設工事部分の約2m×120mの約240㎡である。基点杭は調査区北西側の北側農道から15.7m、東側農道から6.8mの地点に置き、そこから10m毎に杭を打ち1～12区までの区割りを設定した。調査区は3枚の水田に渡り、1～3区で1枚目、畦と排水のU字溝を挟み4～7区で2枚目、排水溝、農道、用水、畦を挟み9～12区で3枚目の水田となる。

調査区の基本的な層序（第5図）は、調査区が3枚の水田に渡るためにそれぞれの水田毎に土層が異なる。それぞれの基本層序を述べると、1～3区では1層：耕土、2層：灰茶褐色泥土、3層：淡茶褐色泥土、4層：淡灰褐色粘質土、5層：暗茶褐色粘性土、6層：淡茶～淡黄褐色粘質土、7・8層：灰褐色粘性土、9層：灰白色粘質土、地山：黄灰白色粘質土である。4～7区は、1層：耕土、2～4層：盛土（4層は耕土の可能性もある）、5・6層：包含層　暗灰色粘質土、7層：包含層　鮮灰色粘質土、8層：灰白色弱粘質土である。9～12区は、1層：耕土、2層：盛土、3層：灰色粘質土（自然堆積）、4層：暗灰色粘質土（自然堆積）、5層：4層と地山（青灰色粘質土）の漸移層、地山：青灰色粘質土である。

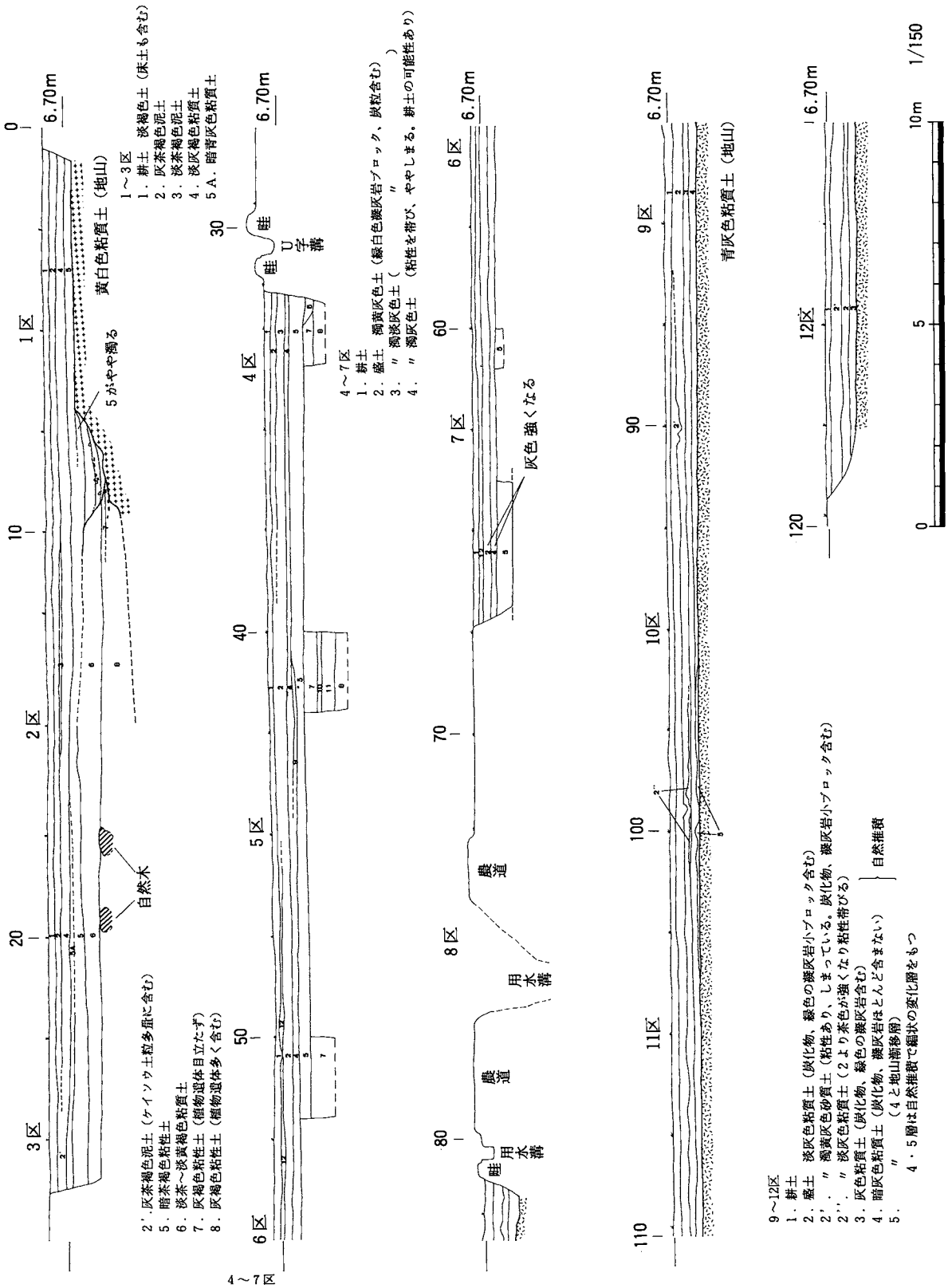
第2節　遺構と遺物（第4・5・6・7・8・9図）

本調査で検出された遺構（第4図）は少ない。1～3区では基点から約5.4～10mの地点で5層（暗茶褐色粘性土）下に地山（黄灰色粘質土）を切込む、幅約2.8m深さ約50cmの溝を1条確認した。この1号溝（第6図）は北西から南東に延びる調査区を斜め、ほぼ南北に横断している。溝の覆土は①層：濁褐色粘質土、②層：茶褐色粘質土（腐食土（炭粒）の混入が目立つ）、③層：茶褐色粘質土と地山質黄色粘粒の混土（植物遺体が混じる）である。①・②層からは多量の木製品が出土した。また若干、覆土最下

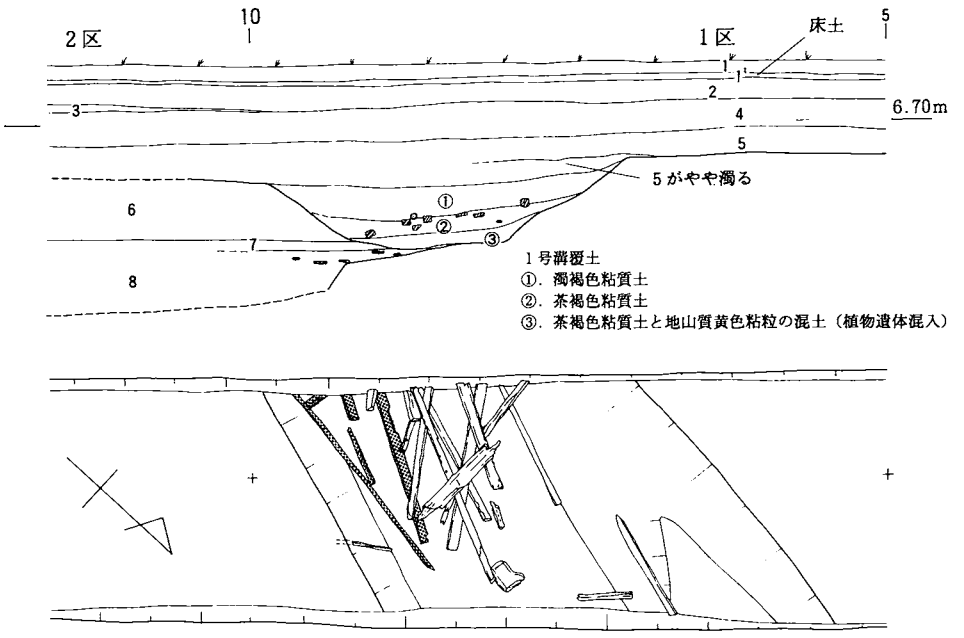


第4図　調査区平面図

0　5 m　1/100



第5図　調査区南壁土層断面図



※スクリーントーンは窪地出土木製品

0　1　2 m　1/60

第6図　1号溝土層断面図・平面図

層から弥生土器片が出土しているが、1号溝下の遺物である可能性もあり、1号溝の明確な時代はわからない。

平面では検出できなかったが、南壁土層断面から、1号溝下に地山がさらにさがる窪地が確認できた。地山は1号溝の中央辺りから徐々に下がり、約9.5m地点では30cm程さがる。この窪地の土層は植物遺体を多く含む灰褐色粘性土で、基点から9m地点では上に植物遺体の目立たない灰褐色粘性土と、間に薄い灰褐色土と細砂の混土が堆積している。この8層の灰褐色粘性土からは木製品と弥生土器片が出土した。2区以降地山を確認していないが、8層は少なくとも30cm以上堆積している。また、17～20m地点の8層灰褐色粘性土の上層では自然木を検出した。

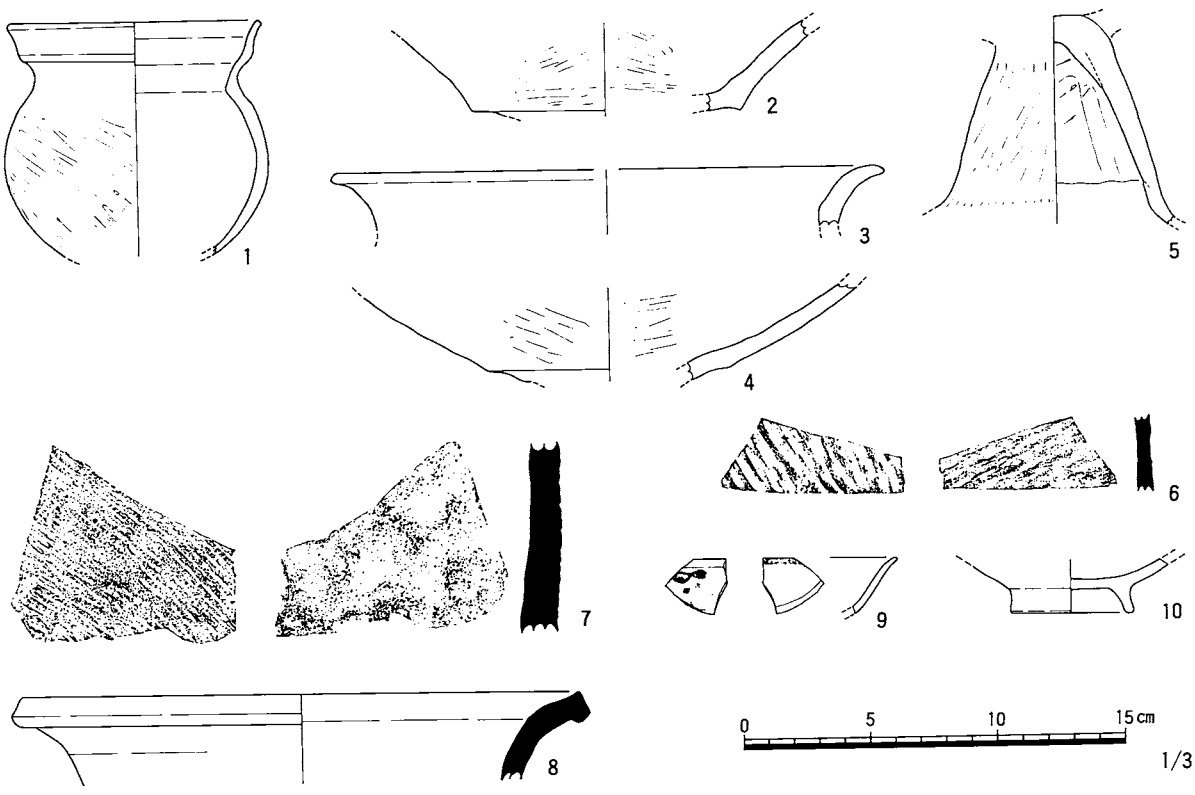
4～7区では1～4層の耕土・盛土下（地表面から約60cm下）に自然堆積の沼状地形が広がる。沼状地形の覆土は凝灰岩の小ブロック、炭化物あるいは植物遺体を含む土であり、上から暗灰色粘質土（5層）、暗灰色粘質土（6層）、鮮灰色粘質土（7層）、濁暗色腐食土（10層）、灰色粘質土（11層）、灰色弱粘質土（8層）である。4～7区では5～11層の140cm以上の厚い堆積により地山が確認できなかった。また調査区は排水溝や農道などによって寸断されるために、1～3区の窪地と4～7区の沼状地形の関係など、土層のつながりは判断できなかった。9～12区でも同様である。

5区点では幅約70cmの近現代の溝かと思われる遺構を検出した。この溝は径約5～8cmの杭が、ぎっしりと埋め込まれて杭列をなしていた。覆土は上層に薄い灰層があり、その下は柔らかい青灰色砂と砂質土が混ざった土であった。この溝はガラス片などの近現代の遺物が出土しており、昭和30～40年代の耕地整備前までは小川だったのが耕地整備の際に埋め込まれたと考えられる。他に出土遺物としては5層上面から珠洲焼片、7層から土師器片などがある。

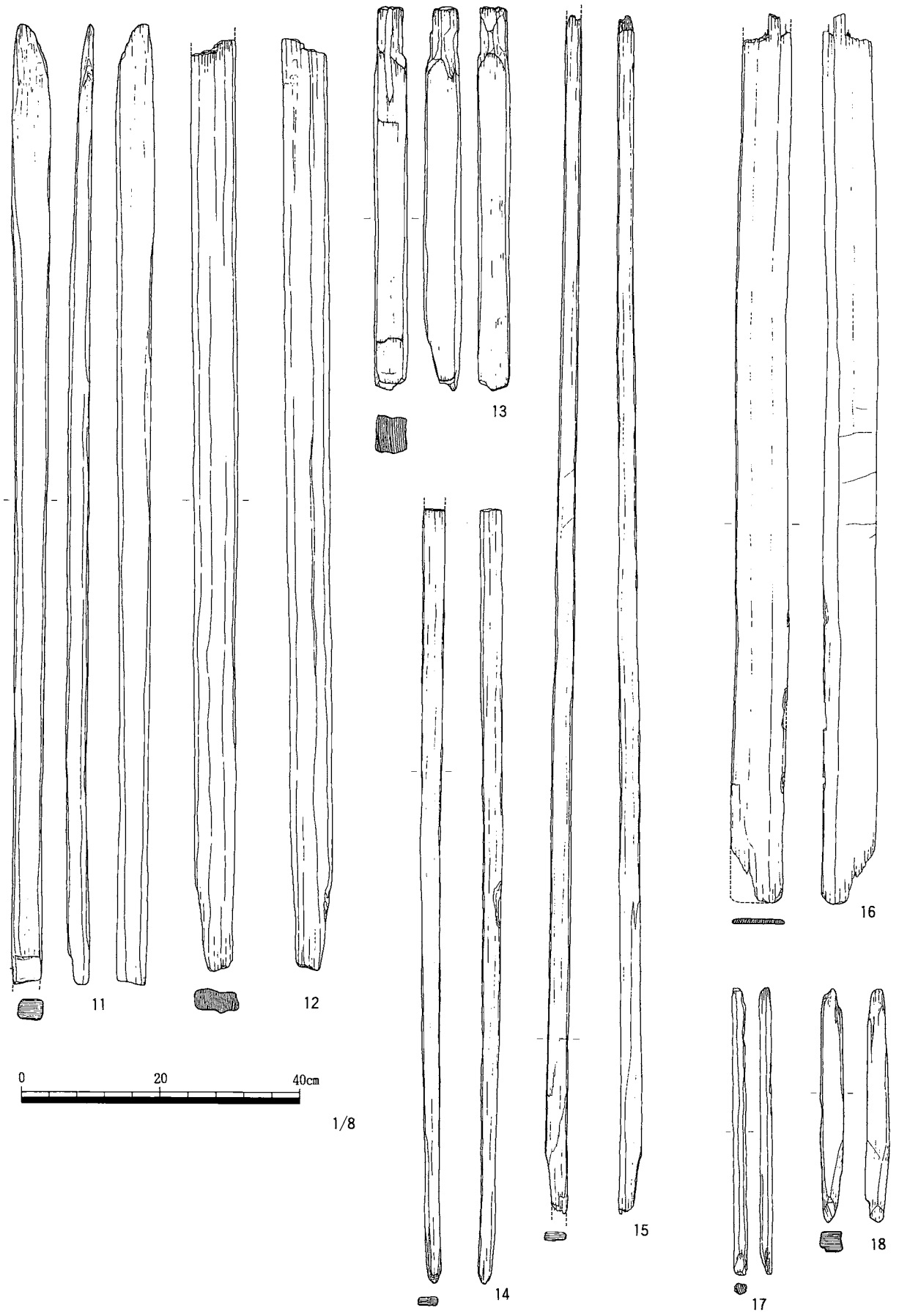
9～12区では耕土、盛土の下に、自然堆積の灰色粘質土、暗灰色粘質土、地山との漸移層があり、81～83m地点で地山（青灰色粘質土）が若干下がるだけで遺構は確認できなかった。地山は1区北西端で確認している地山と対応すると思われる。

今回の調査では出土遺物（第7・8・9図）は、全体で整理箱1箱と少ない。1は2区（基点から11

m地点）の１号溝下の窪地出土の弥生土器の壺である。口径は10.0cmを測る。有段の口縁部と、球胴の体部を持つ。外面調整は体部にケズリ・ハケ調整後にミガキが、口縁部にはヨコナデが施されている。内面調整はヨコナデが施されている。胎土は２～３mm大の砂粒をかなり含む。弥生時代終末のものである。２は弥生土器高坏の坏部片であり、１と同じく11m地点の窪地から出土した。外面に段をもつ高坏の坏部で段のところが少し下に突出する。内外面の調整はミガキである。胎土は緻密で１～２mm大の砂粒を少量と海綿骨片を均一に含む。３は５区包含層出土の土師器くの字甕の口縁部片である。細片のため口径は測れない。また内外面の調整は摩耗が著しく不明である。胎土には１～３mm大の砂粒を含む。４は６区包含層（暗灰色粘質土）から出土した土師器高坏の坏部片である。外面に弱い段がはいり、口縁部に向って少し内湾ぎみに大きく開いてのびる。調整は内外面ミガキである。胎土は緻密で少量の１～２mm大の砂粒と海綿骨片を含む。５は７区包含層（灰色粘質土）出土の土師器高坏の脚部である。脚は大きく八の字に開き裾部で屈曲するようである。内外面の調整は摩耗が進み判断しにくいが、外面がミガキで内面が縦方向のケズリと思われる。内面には粘土の接合部がみられる。胎土は１～２mm大の砂粒、海綿骨片を含む。古墳時代中期のものである。６は６～９区の包含層出土の須恵器片である。甕の破片と思われる。内外面にはタタキが施されている。７は５区包含層（暗灰色粘質土）出土の珠洲焼甕片である。外面にはタタキが施され、内面には当て具痕がみられる。８は出土地区不明の珠洲焼壺の口縁部片である。口径は22.0cmを測り、外湾ぎみにのび端面をシャープに仕上げたくの字口縁で、外面口縁端部が肥厚する。胎土は少量の１～２mm大の白色砂粒を含むが緻密で堅い。７・８は13世紀代のものと考えたい。９・10は５区近・現代溝の杭列間の覆土から出土した。９は瀬戸の磁器の湯呑碗口縁部片である。19世紀代のものである。10は肥前陶器の呉器手碗の底部片である。器壁は薄く、胎土は灰白で堅緻である。薄いオリーブ色の釉が高台底面を除き全面に施されている。17世紀後半～18世紀前半の



第７図　出土遺物実測図１

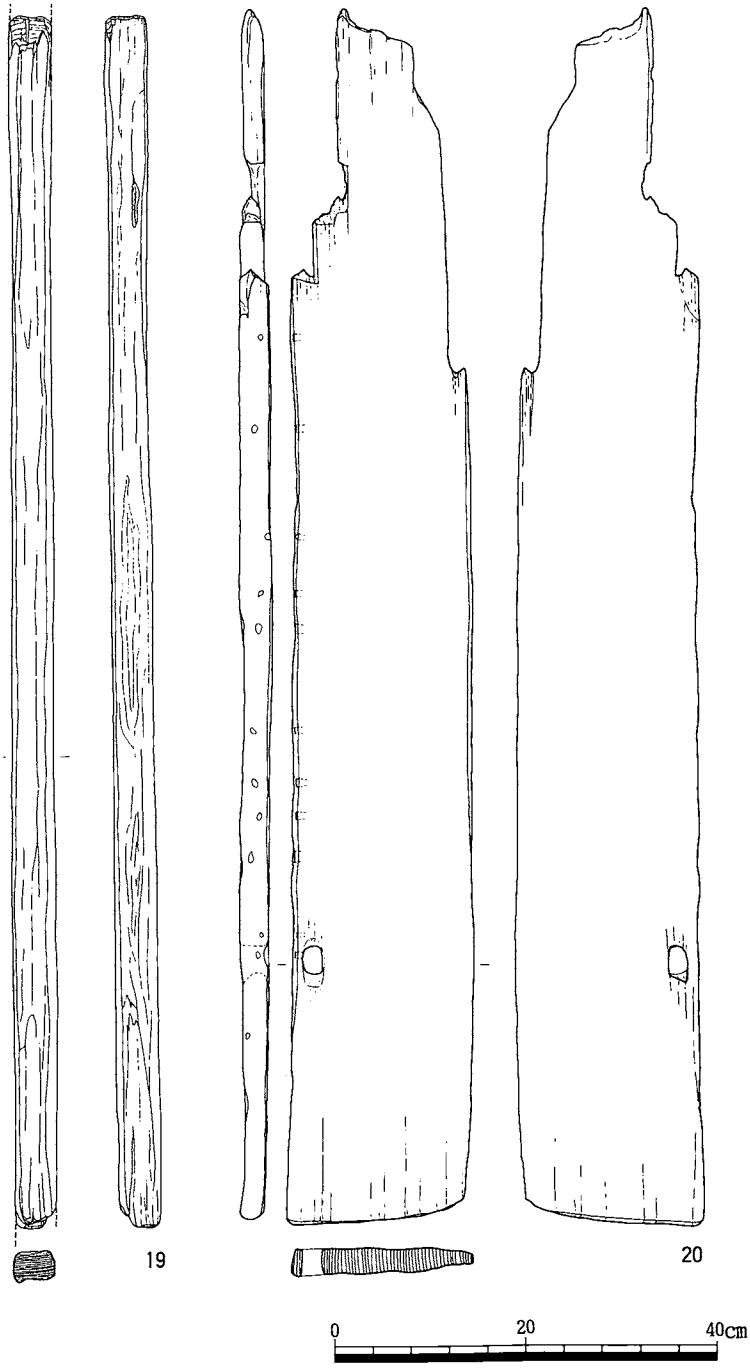


第８図　出土遺物実測図２

ものと考えられる。

11～20は木製品であるが、すべて用途不明の加工木である。11～15は1区1号溝出土のものである。11は最大長138.7cm、最大幅5.5cm、最大厚3.3cmを測る。正方形に近い棒状の角材で先になるにつれ薄く仕上げて板状になる。また先は刀先のような形に加工されている。下は折れてしまっているが、片側だけ少し削られへこむ。12は最大長134.5cm、最大幅6.3cm、最大厚3.0cmを測る。先が折れてしまっているが、板状のものである。下は少し細くなる。13は最大長55.7cm、最大幅5.5cm、最大厚3.2cmを測る。角材で両端が削られている。特に先は4面とも削られて細く仕上げている。14は最大長111.7cm、最大幅3.2cm、最大厚1.2cmを測る。薄くて細い。15は最大長172.6cm、最大幅3.1cm、最大厚1.2cmを測る。14と同じような薄くて細く加工されている。

16～20は2区(基点から11m地点)の窪地、8層(灰褐色粘性土)出土のものである。16は最大長128.5cm、最大幅7.4cm、最大厚0.7cmを測る。かなり薄く加工された板である。17は最大長41.4cm、最大幅1.9cm、最大厚1.7cmを測る。棒状に加工され、下の先に削り痕がみられる。18は最大長33.7cm、最大幅3.3cm、最大厚3.4cmを測る。正方形の角材である。下が削られて先細りしている。19は最大長127.8cm、最大幅4.7cm、最大厚3.2cmを測る。角材である。20は最大長127.8cm、最大幅19.6cm、最大厚4.4cmを測る。板状のもので上部が欠損している。左端の下端から26cmの位置に2×3cm大の穴が1つ穿たれている。また側面にも6～12mm大の小さな目釘のような穴が12箇所乱雑に開けられている。



第9図　出土遺跡物実測図3　　1/8

第4章　おわりに

本発掘調査は、県営ほ場整備事業の施工に係る排水路部分を対象にした小規模なものであった。本遺跡で検出された遺構、遺物は少なかったが、珠洲市域では確認例の少ない弥生時代の遺構、遺物が検出された。

調査区1～2区では1号溝とその下に窪地が検出され、窪地からは弥生時代終末期の壺、高坏片や木製品が出土した。1号溝の覆土上層からは多量の木製品が出土した。1号溝、窪地から出土した木製品はいずれも用途不明であるが、板や角材に削りや穴をあけたりと加工されている。しかし、1号溝の明確な時期は判断できなかった。4～7区の調査区では、耕土、盛土の下に沼状地形が検出された。5区では近現代の溝と杭列が検出された。9～12区の調査区では耕土、盛土の下は地山で遺構は検出されなかった。他の出土遺物としては、土師器、須恵器、珠洲焼、他に近世陶磁器片などがあげられる。

また、同年度に同じほ場整備事業に係わるもので、本遺跡から北西に約1.6km離れた経念遺跡でも発掘調査がおこなわれ、弥生時代後期の遺構、遺物が確認された。この両遺跡とも集落遺跡の縁辺部と考えられ、集落遺跡の本体は比較的小規模で丘陵際に立地していると思われる。弥生時代の包含層上層には、古墳時代や中世以降の遺物を含む凝灰岩質の粘質土が約1～1.5m以上堆積している。この厚い堆積層のために今日まで遺跡の発見を困難にし、若山川、金川流域の遺跡の分布は沿岸部に縄文時代・古墳時代の集落遺跡が、そして丘陵部には古墳や横穴墓が存在するのみと思われてきた。若山川・金川中流域の平地は遺跡の空白地であったのだが、本遺跡や経念遺跡の発掘調査により、若山川・金川中流域に比較的小規模な弥生・古墳時代の集落遺跡が存在する可能性が高くなった。そのため今後の開発事業に関しては、前述のことを念頭に置いて周知の遺跡のないところであっても、事前の分布・試掘調査に細心の注意が必要と考えられる。

以上、調査によって得られた資料をもとに事実報告だけを述べた。将来、珠洲市域で弥生時代の中心的集落遺跡が発掘調査され、少しでも珠洲の弥生時代の状況が明確になることを期待し、改めて本遺跡の検討をしたい。

【引用・参考文献】

伊藤雅文・小松隆史　『大畠南古墳群発掘調査報告』　石川県立埋蔵文化財センター　1993

紺野義夫・平山寅松　「地形と地質」『珠洲市史』　第一巻　珠洲市史編纂委員会　1976

門脇禎二　「珠洲と古代国家」『珠洲市史』　第六巻　珠洲市史編纂委員会　1976

柿田祐司　『大谷則貞』　石川県立埋蔵文化財センター　1992

川畑　誠　「発掘調査の中から」『拓影』　第38号　石川県立埋蔵文化財センター　1992

高堀勝喜　「珠洲市域の石器時代」『珠洲市史』　第六巻　珠洲市史編纂委員会　1976

田嶋明人　「古墳社会の形成」『珠洲市史』　第六巻　珠洲市史編纂委員会　1976

田嶋明人　「珠洲市域の古墳群分布調査」『石川考古』　第148号　石川考古学研究会　1983

浜野伸雄他　『正院川尻城跡』　珠洲市教育委員会　1987

東四柳史明　「中世の珠洲」『珠洲市史』　第六巻　珠洲市史編纂委員会　1976

本田秀生・三浦ゆかり　『飯田町遺跡』　石川県立埋蔵文化財センター　1992

吉岡康暢　「総論　珠洲古陶」『珠洲の名陶』　珠洲市立珠洲資料館　1989

吉岡康暢　「珠洲焼から越前焼へ」『日本海と北国文化』　小学館　1990

若林喜三郎・高澤裕一監修　『石川県の地名』　日本歴史地名大系第一七巻　平凡社　1991

報 告 書 抄 録

ふ り が な	すったいせき
書　　名	出田遺跡
副 書 名	県営ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	松山温代
編 集 機 関	石川県立埋蔵文化財センター
所　在　地	〒921 石川県金沢市米泉町４丁目133番地　℡(0762)43-7692
発行年月日	西暦1995年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯 °′″	東 経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
出田遺跡 (すったいせき)	石川県 (いしかわけん) 珠洲市出 (すずしすった) 田 (た)	17205	05105	37° 26′ 40″	137° 15′ 45″	19920518 ～ 19920529	240	県営圃場 整備事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項
出田遺跡	集落遺跡	弥生時代 終末期 古墳時代 中期 中世	溝　１条	弥生土器 土師器 須恵器 珠洲焼 近世陶磁器 木製品	

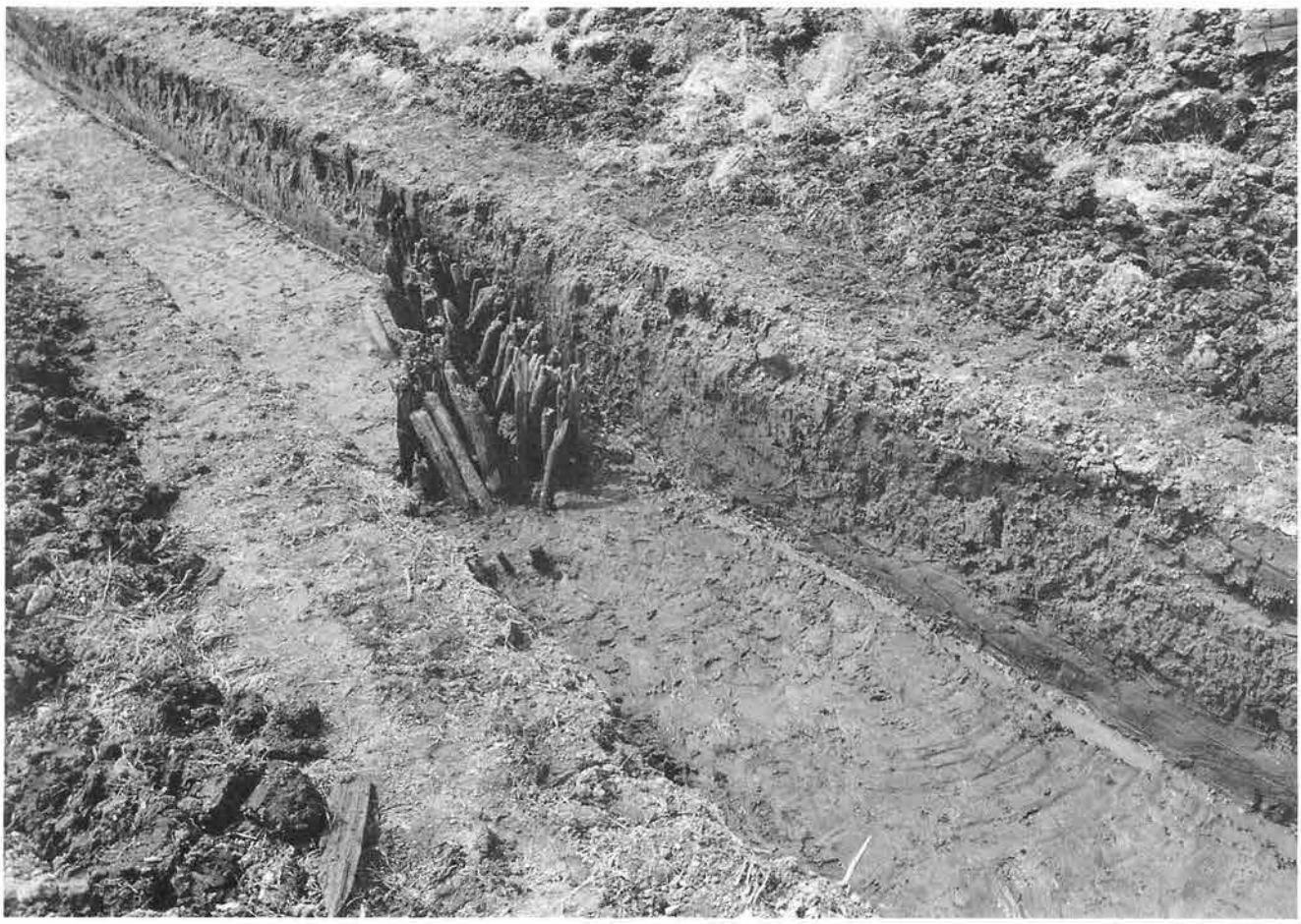
(1)　遺跡遠景（西から）

(2)　1～3区完堀状況（北西から）

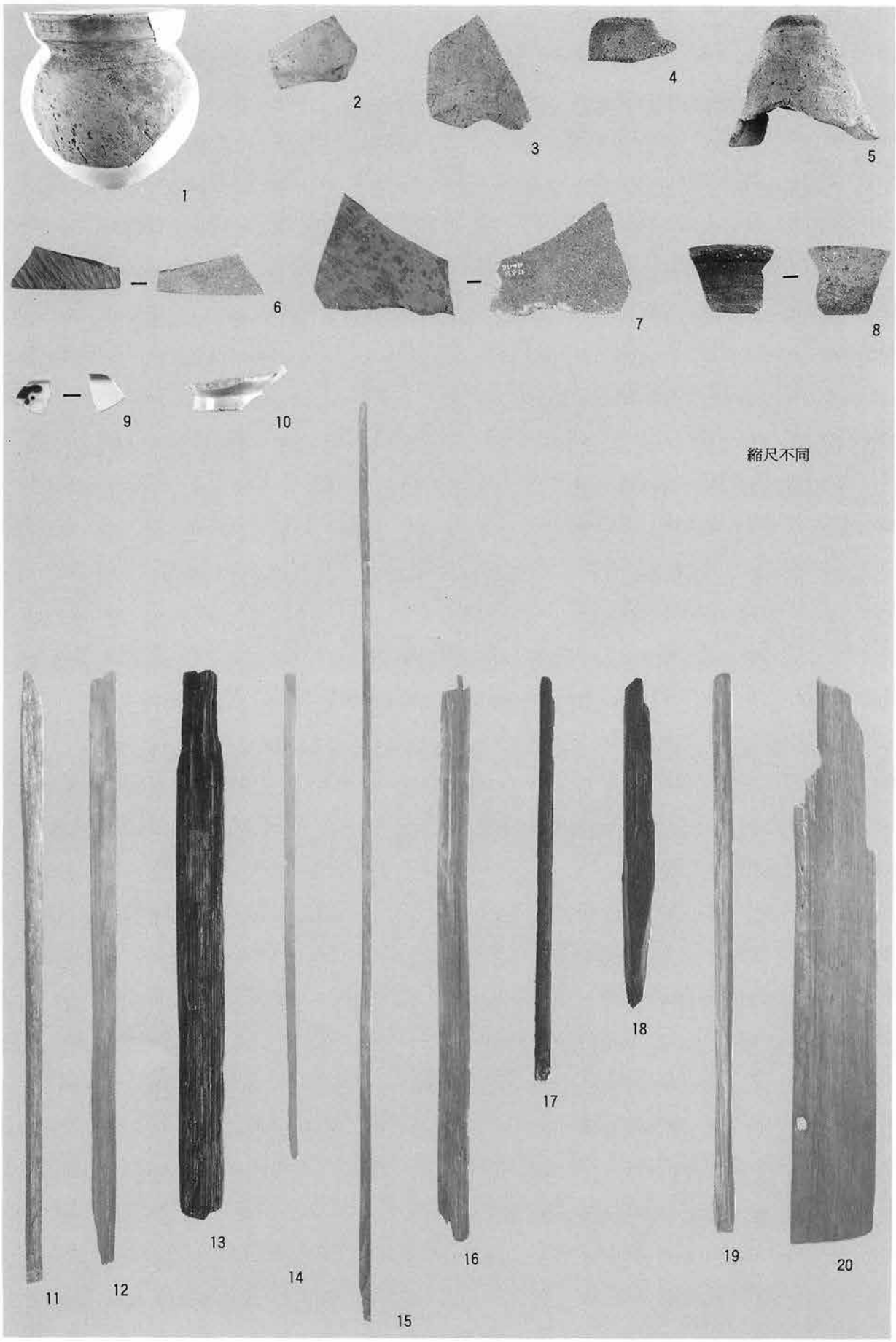
(1)　1区1号溝木製品出土状況（北東から）

(2)　1区1号溝付近完掘状況（南東から）

(1)　4～8区完掘状況（南東から）



(2)　5区近現代付辺完掘状況（北から）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
縮尺不同
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20

出　田　遺　跡

平成 7 年 3 月 30 日　発行

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉町 4 丁目133番地
〒921　電話（0762）43－7692番(代)

印　　刷　北國書籍印刷株式会社